

豊洲市場における空気調査及び地下水質調査結果（概要）

1 調査の目的

豊洲市場では、専門家会議の助言に基づき、空気や地下水質を調査し、正確な情報発信を通じて、都民や事業者の理解と安心に繋げていくこととしており、空気調査及び地下水質調査を定期的を実施、公表しています。

2 調査の概要及び調査結果

(1) 空気調査

ア 調査の概要（測定箇所は、資料1-1参照）

建物1階（5か所）、屋外（4か所）、地下ピット（10か所）の19か所で、ベンゼン、シアン、水銀を毎月測定

イ 採取日

令和4年11月5日～6日

ウ 調査結果（過去1年分の結果は、資料1-2参照）

調査物質	基準値等	単位	建物1階	屋外	地下ピット
ベンゼン	0.003 (1年平均値)	mg/m ³	0.0013 [※] ～0.0015 [※]	0.0013 [※]	0.0009 [※] ～0.0012 [※]
シアン	0.003	mg/m ³	不検出	不検出	不検出
水銀	0.04 (1年平均値)	μg/m ³	不検出	不検出	不検出～0.004 [※]

※令和3年12月～令和4年11月測定値の平均値。不検出の場合は定量下限値として算出。

(2) 地下水質調査

ア 調査の概要（測定箇所は、資料2-1参照）

調査物質の濃度が高い箇所を中心に選定した濃度確認用観測井戸（28か所）、街区全体のバランスを考慮し選定した全体確認用観測井戸（17か所）の45か所で、ベンゼン、シアン、ヒ素を3か月ごとに測定

イ 採取日

令和4年11月1日～9日

ウ 調査結果（過去1年分の結果は、資料2-2参照）

調査物質	基準値	単位	濃度確認用観測井戸	全体確認用観測井戸
ベンゼン	0.01	mg/L	不検出～0.86	不検出～0.062
シアン	検出されないこと (定量下限値:0.1mg/L未満)	mg/L	不検出～1.1	不検出～0.5
ヒ素	0.01	mg/L	0.004～0.042	不検出～0.066

3 専門家の評価（資料3）

- ・豊洲市場の地下水は、箇所により濃度が異なっている一方、空気中のベンゼン濃度は、建物1階、屋外、地下ピット内で同程度であり、地下水の濃度変動は空気測定結果に影響を与えていないものと考えられる。
- ・豊洲市場の空気は、継続して大気環境基準等に適合しており、科学的な視点から安全は確保された状態にあると考えられる。

4 豊洲市場の安全・安心について

都は、平成29年7月に「無害化に代わる新たな方針」を定め、安全で安心な市場の実現に向け、専門的・科学的で妥当な対策を講じることで、地上の安全に万全を期すとともに、正確な情報発信を通じて、都民や事業者の理解と安心に繋げていくこととしています。

こうした方針に基づき、豊洲市場では様々な対策を講じており、平成30年7月以降、豊洲市場の安全を確認するために毎月実施している空気調査の数値は、すべて大気環境基準等に適合しています。

今後とも地下水管理システムによる地下水の揚水及び空気・地下水質調査を継続するとともに、これまでの調査によって蓄積した数値をもとに分析を行い、正確な情報をわかりやすく公表していくことで、豊洲市場を安全・安心な市場として運営していきます。

（参考）

令和4年8月の豊洲市場における空気中ベンゼン濃度の測定値が、例月と比較し、高い数値（建物1階及び屋外で $0.0036 \text{ mg/m}^3 \sim 0.0039 \text{ mg/m}^3$ 、ただし、大気環境基準は1年平均値が 0.003 mg/m^3 以下）を示したことから、令和4年7月から9月における区部の一般環境大気中濃度との関連性を分析しました。

その結果、豊洲市場の空気中ベンゼン濃度は、一般環境大気中濃度（暫定値）とおおむね同じ動向を示していることが認められました。

また、開場直後からの空気調査結果と、公表されている令和3年3月までの区部の一般環境大気中濃度（確定値）を比較したところ、おおむね同じ動向を示しています。